

ヌアクショット・セブハ保健センター衛生改善計画の引渡式

在モーリタニア日本大使館

5月22日、ヌアクショット州セブハ市保健センターにおいて、江原功雄駐モーリタニア大使臨席の下、「ヌアクショット・セブハ保健センター衛生改善計画」によって整備及び修繕された保健センターの引渡式が開催されました。同計画は、草の根・人間の安全保障無償資金協力の一環として日本政府が支援し、「環境のための NAFORE 組合（当地 NGO）」が実施したものです。

贈与金額 66,000ユーロ（約811万円）の本援助により、洪水被害抑制のための盛り土工事、焼却炉2台、胎盤処理槽、公衆トイレ、発電機小屋の改修が実施されました。本計画を通じて、セブハ市の住民約7万2千人が利用する保健センターの医療サービスの質及び環境が改善されます。

日本政府はこれまでにモーリタニアにおいて、貧困との闘いに対する支援の一環として、保健分野の支援を、あらゆるレベルで実施してまいりました。これは、我が国が、すべてのモーリタニア国民が必要な医療サービスを享受できるよう、国、地方での保健サービスの拡充と人材育成の支援に重点を置いているためです。また、上記の取り組みは、モハメド・ウルド・アブデル・アジズ・モーリタニア・イスラム共和国大統領の基本政策の最重要課題である「貧困対策」にも合致するものです。

江原大使は、セブハ保健センターが、セブハ市住民の健康を守るため、住民の日々の生活に密着した一次医療の担い手としてしっかりと役割を果たしていくことを願うとともに、保健センターのスタッフ及び利用者が、本計画における全ての供与品を適切に維持管理し、しっかりと活用すること、そして、両国民の友好と連携が一層強化されることを願っている旨述べました。

バ（Mr. Amadou Diam BA）環境のための NAFORE 組合代表は、在モーリタニア日本大使館の協力と財政的支援に対し、謝意を表明しました。

セガン（Doctor Cheikh Boutar SEGANE）保健大臣顧問は、日本の協力に対し、謝辞を述べました。



バ環境のための NAF0RE 組合代表スピーチ



江原功雄大使スピーチ



支援プレート除幕



テープカット



集合写真

（セガン保健大臣顧問（江原大使より左2人目），バ環境のための NAF0RE 組合代表（江原大使より左4人目））